

令和4年度第5回オンライン自主研修 感想・意見

**令和4年度 東灘区保護司会
第5回オンライン自主研修のご案内**

【教材】いつでもYOUTUBEで視聴できます

【自主研修の要領】
ご覧になった感想、意見を100字程度にまとめて
東灘区保護司会広報部会宛
「所属支部」「氏名」「掲載月日」を記入してメールください。(支部長による代行メールでも結構です)
送付期限は**令和4年12月15日(木)**です。(期限遵守と100字程度の感想・意見は必須です)

① 俳優高知東生氏の講演を聞きました。幼少期から青年期に至るまでの壮絶な体験・家庭環境の中でよく今の高知さんが存在しているなあ、というのが正直な感想です。覚醒剤を体験する瞬間の心の動きや仕事や結婚生活から逃げるために覚醒剤を使う流れも良くわかりました。

刑務所から出所後の言葉「薬をやめることはできても、これからの人生をどう生きるかが難しい」という言葉は切実だと思います。

人生を生きなおすのに、自助グループの力が大きかった言われていましたが、やはり、覚醒剤からの脱却は本人だけの力では難しく、支援団体の援助がひつようだと認識しました。

最後に、「認知のゆがみ」という言葉が印象的でした。

② 高知さんの紆余曲折を経てどん底から立ち直られた話を聞き、いかに周囲の方々とのつながりが大切かを痛感した。

我々保護司の仕事についても、さらにその自負と誇りをもってその任を全うしていきたいと感じた。

③ 色々な言葉が語られていましたが、「過去を価値に変える」という田中紀子さんの言葉が大変印象に残りました。

高知氏もおっしゃっていたように、一度の失敗で人生が終わるような教育、生活は、味気のないものです。多くの人が失敗をして、恥をかいたからこそ今があるといえるでしょう。その時、助けとなる人、場所が備えられていることが大切です。

一人ですべてを担うことは難しいでしょうが、専門家や諸団体と協力することが大切であることを改めて学びました。協力するためには、互いに歩み寄ること、情報を共有することが肝要になってくると思います。情報は、待つだけでなく、受け取りに行くことも大切ですので、このようにオンラインで研修できるのは、大変有意義でした。

④ 今回の講演では薬物依存からどう脱却するか、再犯をどう防ぐかと言う視点では無く「新たな生活をどう構築するか」に重点が置かれていて興味深く聞かせてもらいました。

薬物依存を支援する「ダルク」と言う施設が各県に置かれていて薬物から立ち直った経験者が「寄り添う」と言う話は聞いたことがあるのですが自分はまだ携わったことが無いので良く判りません。

今回の講演者は再犯に関しては心配無いが「これからどう生きていこうか」と言う葛藤から話が進んで

いたように思いました、田中さんとの出会いから「自分は一人ではないんだ」と言う事に気付き田中さんの提案を受け入れて「母親のルーツ」を探りに四国へ行ったという話は感動的でした。

以外なところから道が開くことが出来る、保護司として多種多様なカウンセラーとの接触や受講もこれから必要なのかなと思いました。

PS.ホールでの講演はスピーカーを通じて放映されるので音が割れて聞き取りにくかったです

⑤ 「生き直す」テーマで。「高知さんの過去を価値に変えて欲しい。私達と一緒に話しをして下さい」というスポンサー田中紀子さんとともに高知さんは

- ・自分の生い立ちを隠さず語る
- ・自分の考え方のクセを明らかにする
- ・そして、過去を振り返る。母親のルーツを探ることで謎が解けた

そこまでやって「自分を変えることができ、本当の生き方に気づいた」と語る。

この自叙伝を、高知さんと田中さんの掛け合いできめ細かく語られた。依存症支援はここまで大変なことであるとは思っていなかった。とても意義ある講演会でした。